

パブリックコメントの結果について

募集期間：平成28年2月22日～平成28年3月7日

応募件数：8件

番号	応募方法	募集要件	意見等	回答
1	Eメール	1. 弘前市内に住所を有する人 2. 弘前市内に事務所等を有する人 または団体等	駐車場整備について：計画地周辺には民間駐車場も数多く存在することや、まちの回遊性や滞在時間の増加などから賑わいの向上をはかるのであれば駐車場は不要と考えます。	併設することを想定している商業機能や美術館施設に係る駐車場については、一定（最小限）の規模の駐車場は必要と考えております。 なお、企画展等駐車場に対する需要が増加することが予想される場合には、周辺の民間駐車場との協力体制の構築は必要であると考えております。
2		3. 弘前市内に勤務する人 または団体等	コンセプトについて：コンセプトの「クリエイティブ・ハブ」が良くわかりませんが、市民が世界の芸術に触れあえる機会を提供するのであれば、ハレの日だけではなく日常的に目にしたり触れ合えたりすることを目指すことを手助けすることが大事だと考えます。	市としても貴見のとおり考えており、市民の方が気軽に立ち寄ることができるスペース及び市民との協業について、「施設の利用者が単なる観覧者にとどまることなく、積極的に参加・体験できる施設とする」こととしております。
3		5. 弘前市に対して納税義務がある人、または寄附を行う人	防災・防犯対策の実施、環境への配慮について：至極あっさりとは書かれていますが、弘前市がスマートシティを目指すためには、このような注目を集める施設こそ大事なのではないのでしょうか。太陽光は当然として、天水（雨水や雪等）の活用も図るべきだと考えます。敷地全て（緑地、屋根等）の天水の積極的な貯留を行い、ヒートアイランドの防止とトイレ、冷房、散水、さらには災害時の防災や飲料等への転用が可能な設備を持つことが中心市街地の施設として重要なことと考えます。	防災・防犯対策の実施、環境への配慮については、太陽光や天水（雨水や雪等）の活用を含め、平成28年度中に公募する民間事業者からの提案を踏まえ、検討してまいりたいと考えております。
4			その他：弘南電鉄や循環バスの有効活用による「走るアート」の強化。美術館の名称を持つ駅は話題性と集客性をあわせもつことができると考えます。大鰐でJRから乗り換えてでも来たくくなるような「アート列車」や美術館のノベルティグッズを手にした人々の往来が街を元気に変えていくと考えます。	隣接する弘南鉄道大鰐線のほか、弘前公園で開催されるイベントや、商店街、市内他ギャラリーとの連携により、より事業の効果が増大するものと考えております。このことについては、「エリア・アート・マネジメント」として、文化交流拠点の運営と合わせて実施してまいりたいと考えております。

番号	応募方法	募集要件	意見等	回 答
5	F A X	1. 弘前市内に住所を有する人	耐震補強について：補強は内部空間および内部全壁面を鉄骨で組み立て支える。外壁はペインティングなどの化粧工事などせず古式蒼然たる雰囲気を残す。(金沢歴史博物館第 1 棟を参考にする)	耐震補強については、ご指摘の工法を含め、数種類の工法について、コスト、工期、安全性等の比較及び総合的な評価を行っているところですが、ご意見につきましては、今後、耐震改修の方針を定める際の参考とさせていただきます。
6			黒板塀について：この煉瓦倉庫の今でも一部残っている黒の板塀を以前のようにもっと耐震強度を増して範囲を広くして設置する。	黒板塀を含む外構工事については、文化交流拠点の整備工事に合わせて実施したいと考えております。なお、ご意見につきましては、来年度以降、外構の設計をする際の参考とさせていただきます。
7			弘南鉄道大鰐線の走る電車が見える環境を残す。現在の鉄の柵は高さを変えず生垣にする。	弘南鉄道大鰐線の線路と緑地の間に設置している鉄柵は、侵入防止柵として設置しているもので、公園の利用者の安全性を考慮し、現状の高さ 1.8m の鉄柵を設置しているものです。なお、電車への景観及び生垣については、緑地の整備の中で、検討してまいりたいと考えております。
8			事業の概要等について：①検討委員会及び六本木森美術館館長の南條史生委員の意向は本整備方針(案)に反映されているか。②また、事業の概要は企画立案した弘前市の姿勢、立ち位置が読み取れるが、緑地公園・煉瓦倉庫南側の神社がある近辺の今の状況は再開発なのか都市計画道路のうごきなのか判然としない。原案でそのことにもう少し言及してほしかった。	①南條委員の意向を含め、検討委員会における検討内容を踏まえ、本整備方針案を策定したものです。②ご指摘の事業は、市道住吉山道町線道路整備事業であると思われます。当該事業は、都市計画道路3・3・2号山道町撫牛子線を延伸し、神社の東側を通る県道石川土手町線との交差点改良を行うものです。本事業の実施にあたっては、周辺の整備事業との連携の必要性は認識しており、吉野町緑地や、3・4・6号山道町樋の口町線、市道住吉山道町線、弘南鉄道大鰐線中央弘前駅前広場等の整備と連携して実施してまいりたいと考えております。